

安芸市の秀峰 五位ヶ森

安芸平野からほぼ真北「ラクダのコブ」と形容される優雅な山容は安芸市と香美市の境の緩線でひとまわりをひく。山名の由来は、戦国時代、安芸を治めた陽族安芸國虎にちなみ、薊我赤兄（左大臣・従五位・勳五等の位を持っていた）にちなみとも伝わる。（赤兄の墓が畑山にあり）土佐の国において、五番目に位が高い、気高い山でもある。

昭和橋より山頂まで標高差約1,000m。ほとんどが人工林の中をひたすら登るが、伐開地からの眺望や明神からはゆるやかな天然林となる。山頂からは香美市の山々や南国平野が望める。

コースガイド

伐開地へ出ると登山道が「金切れる」。作業道と東に進み、伐開地と植林の境を登ると五位ヶ森へ至る尾根に出る。また、伐開地の中を北西へ横切る歩道の跡を通り、植林境をたどると東からの尾根と合流する。あせらず、慎重に見極めて道を見つけること。作業道とそのまま進むと大変迷ってしまう。

ガイドブックにある大瀬木馬道はわからなくなっているので注意。

参考文庫
○安芸の民話
○高知県の山
○山と野原を歩く

昭和橋へ五位ヶ森
登り2～3時間
下り2～2時間30分
片道約3.5km

祝いの谷のめぐら岩
祝いの谷のふもとから20mほど下の川の真中、のこもりし所に、お通さんと祀ったお堂あり。その昔、高知のお通さんが、祝いの谷へ迷い込み、命をとおしたという。その岩には手の跡が残り、眼病にご利益があるという。

石がごりごり。石車にのりないうちに用い。

大正12年、安芸水カヌー選手として操業開始。その後、四電が買収し、昭和48年まで発電していた。

五位ヶ森からこんこんと湧き出るうまい水。

戸秋津様

堂面様

水場

登る前の水分補給

柚子畑

大イチョウ

昭和橋

火田山

元祖のりぼ

小川名

土佐ジロー

檜谷山
国有林

安芸市と香美市の境

五位ヶ森標識

山頂はこんな感じ。空が広く開ける。二等三角点

アセビが繁茂

五位ヶ森
1,185m

作業道からも安芸市平野～県東部の山並み、太平洋までよく見える。

登山道と作業道が接する鞍部。尾根に出る。

明神

人工林の中にこぼれかおび、異世界のような雰囲気が漂う鎮守の森。

五位ヶ森では時々「ドーン・ドーン」と太鼓が鳴る。響くことがあるという。

「安芸の民話」には天狗にまつわる昔話が各地（穴内井口、妙見山、東山など）に伝わっている。その中でも、五位ヶ森に住むという天狗は、ステータスも能力も、とても高かったことが想像できる。

注）作業道と進むと迷ってしまう。（正解へおまかせ）

人工林の中のなだらかな尾根

鹿の巣に
はっている

伐開地

大岩の下で
歩道が
とぎれる

大岩

標識あり

作業道

少しなだらかになる

こんな上まで石垣の痕跡。

休憩所標識

杉の枝が腰にひかかる

急坂がうづく

火山風景
伐開地東側上り、南には太平洋が広がって安芸平野一望

まるで遺跡のように、無数の石を積み上げた段々畑の跡に、今はびっしりとヒギヤズが植林されている。何世代にもわたって石を積み、土を耕してきた人々の営みの日々は、きっと尊く、そして静かで、節度ある幸せなものであつたことだろう。